

生活訓練棟
改修工事終了

昨年11月より内装工事に入っていた生活訓練棟は、冬期の工事（障害者自立支援基盤整備事業）が終了し、3月上旬に引き渡しとなりました。この工事は22年度より日中活動支援の取り組みを見直し、介助を必要とする人と高齢の人達に対する日中活動支援の幅を広げる為に行われました。

生活訓練棟は、生活実習をする為の2室の居住スペースと、木工作業、室内作業などを行う作業スペースからなっています。



高齢の方たちがくつろぐスペース

だが、今回の工事では居住スペースを無くし、多目的なスペースに変更し、作業スペースもフローリングに貼り替え、室内での運動やレクリエーションなどが行える様になりました。

その為、介護支援を必要としている人達16名には、現在取り組んでいるパズル・ビーズ通しなどの個別課題の他に、マットやクッションボールなどを使った体操を始め、座位姿勢による筋力の低下防止の為の運動器具による体操の取り組みを実施して行く予定です。これは現在道内の施設でも実施している所があり、当施設でも見学をし、道具や機器の使用をする事で、体を安定した型で支える事ができ、体の関節を無理なく動かせる為利用者への負担も少なくなかつ安全に取り組み事が出来ることを実感しました。

また、高齢者のグループ11名については、現在も体力維持のための運動を行っています。外を歩く以外にもルームランナーの使用で、天候に左右されず



使いたくなくすべし多目的

運動メニューを実施する事が出来、個々人に合わせた取り組みが出来ます。その他にもハサミなどを使用しての紙工作などが行える室内活動スペースもあり、日中活動のメニューとその取り組みの幅が広がっていきます。この様に、作業（生産活動）に取り組みにくい人達に対しての支援を、ここ数年間で模索しながら実施してきたことを23年度は、この新生活訓練棟にて、具体的な形にしていきます。

4月1日に必要な物品などを搬入し、既に新生活訓練棟での日中活動がスタートしています。まだ運動器具一部は搬入されていませんが、利用者も明るい雰囲気のスペースで生き生きとした表情を見せながら活動しています。

(M・A)

夢が叶った!!

くすとして地域生活の

今後を考える

4月1日、K・Sさんがひばり荘に引っ越しし、長い間の夢であった地域生活を実現することができました。

Kさんは、平成15年4月に入所しました。入所当初は、不満をなかなか口にできずに泣くことや、他の人に八つ当たりをしてしまうこともありましたが、もともと、地域自立への願望が強かったKさんは、数年前のグループホームでの短期生活実習の取り組みを機に、自立を目指す事を目標に掲げ、不満を抱え込んで、きちんと職員に相談をすることができるようになり、とても落ち着いた生活を送ることができるようになりました。

作業はデイセンターいちばんぼしにて、町内の製菓会社の下請けとして、主に菓子詰めを行っています。主には、ホタテの稚貝が上がる時期には、『道の駅あぶた』にて稚貝の加工作業を行っています。作業に真面目に取り組み、将来の自立のために、お金も一生懸命貯め、そしてとうとうKさんの努力が実り、ひばり荘での生活がスタートした

のです

まだ若いKさんが地域生活を実現したことはとても喜ばしいことですが、現在地域で生活している方の平均年齢は男女とも40歳を超えており、最高齢の方は男性で77歳、女性で73歳であり、高齢化が進んでいます。そのため、重度・高齢者の方を対象にした共同生活住居の建設が町内青葉地区にてこの4月より着工していて、開設は10月を予定しています。専用住居の開設により、若かりし頃、Kさんのように期待に胸を膨らませて地域生活を始めた方たちが、いつまでもその頃の幸せな気持ちを抱き続けてくれることを願いながら、住居の完成を待ちたいと思います。

(M・S)



共同生活住居の地鎮祭